

イメージで比べない、
考えない世の中とは

小 六

みなさんに好きな○○はありますか。
私にもいろいろ好きな○○があります。
家族にも、友達にもそれはだれにでも
あると思います。でも、その中でもや
はり男、女のイメージは残っていると
思うのです。

私がそれを自覚したのは、つい最近
の春休みでした。私と弟は電動歯ブラ
シを買おうとしました。ただ電動歯ブ
ラシは高いので、お母さんはなやんで
いました。そこでお母さんは、
「これならいいよ。」
と言いました。それは、ピンク色と青

色のセットでした。私と弟は今すぐ決
めたい性格なので案の定、すぐどちら
がどちらを使うかの話になりました。
弟は青色希望で、私も青色希望です。
両者ともゆずらずけんかになりかけて
いたとき、お母さんが、

「あなたはピンク色にしたら？」
と言いました。私は、そのときその言
葉について考えてみました。私がお姉
ちゃんだからだろうか。私が女だから
だろうか。それともほかに理由が。自
分で考えても答えが出ず、結局、お母
さんに聞いてみました。

「なんで私がピンクを使ったほうがい
いの？」

「ピンク色の方はパッケージも女の子
向けだし、あなたもお姉ちゃんです
よ。まあ、最近はそんな言葉を使

「だったらあんまりだけど。」
お母さんは差別かも、と自覚して発言しているのだと思いました。

結局、私は今、ピンク色の電動歯ブラシを使っています。でも、弟が使っているのを見て、「青色を使いたかった。」と思う自分が心の片すみにあります。そして私は考えました。お母さんも言っていました。あまり言っはいけないと分かっていたけれど、やはり言ってしまう、という人もいます。ただ私は、それを否定しません。というのも、今までがそうだったからです。昔は、男が青や黒、女が赤やピンクなどランドセルの色が決まっていたそうです。しかし、そのイメージで苦しんでいる人もいたのかもしれないと思いました。例えば、ズボンか

スカートかを選べる学校が増えてきました。が、「ズボンがほしいけれど今まで男子がはいていたから、何だかはずかしい。」と思う人が出てくるかもしれない。インターネットのアンケート情報によると、女子がズボンをはくことについて、「自由でよい」「動きやすそう」という意見が極めて高い割合を占めて、男子も女子も賛成している様子が分かりました。しかし、「いや和感がある」と答えた人も少なくありませんでした。

私は、この自分の考えをもとに、このような出来事を減らすためにどうすればいいか考えました。考えて私は、今までのイメージを無くすことだと思います。やはり、みんなが自由に選べるような取り組みをしても、イメージ

ジがあるので行動しにくいかもしれない
せん。そのイメージを無くすためには、
例えば、今まで男女でちがったものを
選べるようにしたり、男女同じがらや
物を使うようにしたりするなど差がな
いようにしたらよいと思いました。も
う今もやっているところもあると思
いますが、続けていくことで「い和感
ある」と思う人を少しでも減らして
けるのではないかと思います。何年、
いや、何十年かかるかもしれませんが、
イメージで比べない、考えない世の中
になってほしいです。